

(1) 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

二匹の馬が、窓のところでぐうぐうると昼寝をしていました。すると、すずしい風がでてきたので、一匹がくしゃみをして目を覚ましました。ところが、後ろ足が一本しびれていたので、①よろけてしまいました。「おやおや。」

その足に力を入れようとしても、②入りません。そこで友だちの馬をゆり起こしました。「たいへんだ、後ろ足を一本、だれかにぬすまれてしまった。」  
「だって、ちゃんといっているじゃないか。」  
「いやこれはちがう。だれかの足だ。」  
「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちょっとこの足をけとばしてくれ。」  
そこで、友だちの馬は、ひづめでその足を③けとばしました。「やっぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくの足ならいたはずだ。よし、早く、ぬすまれた足を見つけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。  
「やあ、イスがある。イスがぼくの足をぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてやろう、ぼくの足ならいたはずだ。」  
馬はかた足で、イスの足をけとばしました。  
イスは、いたいとも、なんとも言わないで、こわれてしまいました。

(『あし』新見南吉。出題にあたり一部を書き改めたところがある。)

問一

文章中の①②③に入るふさわしい言葉を、後のア～エの中から選び、記号で答えましょう。

①

②

③

ア さっぱり

イ ぼおんと

ウ くつきりと

エ よろよると

(2) 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

春の<sup>①</sup>あたたかい日のこと、渡し舟に二人の<sup>②</sup>小さな子どもをつれた女の<sup>③</sup>旅人が<sup>④</sup>のりました。

舟が出ようとすると、

「おおい、ちょっとまってくれ。」

と、土手の向こうから手をふりながら、さむらいがひとり走ってきて、舟にとびこみました。

舟は出ました。

さむらいは舟のまん中に<sup>⑤</sup>とすわっていました。

そのうちにいねむりははじめました。

<sup>⑥</sup>あたたかいので、

黒いひげをはやして、強そうなさむらいが、こっくりこっくりするので、子どもたちはおかしくて、ふふふと笑いました。

お母さんは口に指をあてて、

「だまっておいで。」

といいました。さむらいが<sup>⑦</sup>はたいへんだからです。

(『飴だま』新見南吉。出題にあたり一部を書き改めたところがある。)

問二

文章中の 線①～④の言葉が、「ア 動きを表す言葉」、「イ 様子を表す言葉」、「ウ 物や事を表す言葉」のどれかを考え、ア～ウの記号で答えましょう。

- ①
- ②
- ③
- ④

問三

文章中の ⑤、⑥には様子を表す言葉、⑦には気持ちを表す言葉が入ります。それぞれふさわしい言葉を、後のア～カの中から選び、記号で答えましょう。

- ⑤
- ⑥
- ⑦

- ア ぽかぽか
- イ おこって
- ウ はりきって
- エ 楽しんで
- オ しんしん
- カ どっしり